



# テクニカル・メッセージ

## フルトレーラー ピントルフックの点検整備について

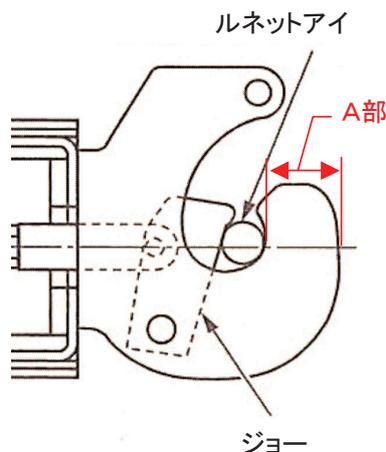
フルトレーラーのピントルフックの亀裂・摩耗の点検、ジョーとルネットアイすきまの点検及びロックピン穴ずれの整備などについてお知らせいたします。尚、ロックピン穴ずれからロックピン挿入が不完全な状態で走行したことにより、連結が外れて高速道路で横転する重大事故が発生していますので注意頂きます様、お願い致します。

### 1. ピントルフックおよびジョーの亀裂点検

ピントルフックおよびジョーに亀裂がないか点検し、亀裂がある場合には、交換してください。

### 2. ピントルフックの摩耗点検

ピントルフックボデーは、ルネットアイとの当たり、擦れによって変形、摩耗します。下記の最も厚みの少ない箇所をノギス等で測定し、摩耗限度を下回っている場合は、交換してください。

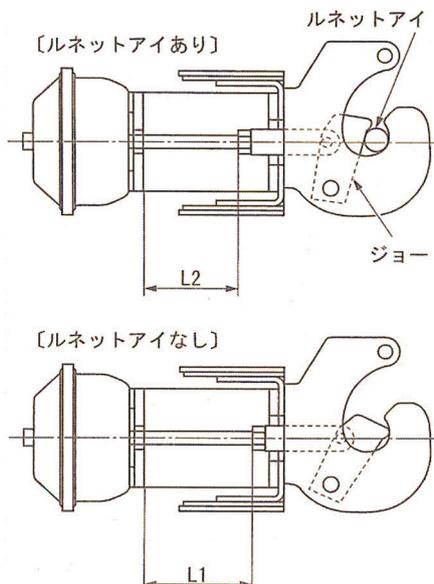


ルネットアイとの  
当たり擦れから  
赤枠部分が変形  
摩耗します。

(ピントルフックの摩耗限界)  
**A部寸法: 50mm**  
\* 新品時は、55mmです。

(ルネットアイの摩耗点検)  
トレーラーメーカーの指示する  
方法で点検を行って下さい。

### 3. ジョーとルネットアイのすきま点検



チャンバーにエアを充填し、ジョーとルネットアイの間にすきまがある場合、またルネットアイあり、なしの状態、それぞれのプッシュロッドストロークを測定し、その押さえ代が基準値以下の場合は、当該車両の整備解説書により調整を行ってください。

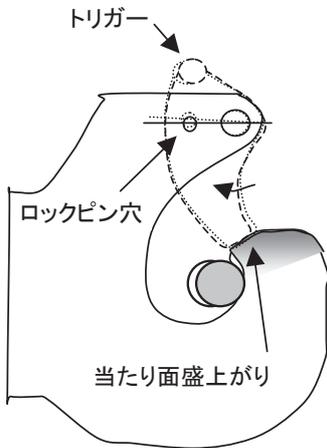
押さえ代 =  $L1 - L2 > 5\text{mm}$

**基準: 5mm以上**

#### 4. ピントルフックのロックピン穴ずれからピンが挿入出来ない場合の整備

ピントルフックのルネットアイとの当たり擦れによって、トリガー先端との当たり面が盛上がり、トリガーが徐々に回転し、ロックピンの穴がずれてピンが挿入出来なくなる場合があります。その場合には、フックボデーの盛り上がった部分を下記により、ヤスリ、グラインダー等で削り、平らに整えて、ピンが挿入出来るように整備行ってください。

##### 【ロックピンが挿入出来ない状態】



	ロックピンが挿入出来ない	挿入出来る(正常)
ロックピンの挿入状態	×	○
フックボデートリガーの当たり面盛上がり	(トリガー当たり面が盛上がり)	(比較:新品時)

##### 【整備の方法】

(トリガーの当たり面が盛り上がった状態)

(盛り上りを削る整備のやり方)

(盛り上がった部分を削り取る)

(ロックピン挿入状態)

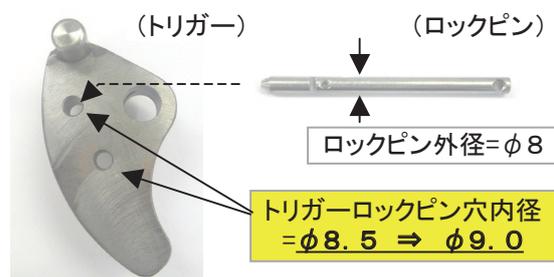
①トリガー先端がフックボデーに当たること。

②トリガー先端を押し下げた時にフックボデーと約1mmの隙間があること。

〔 当たり面の盛り上がった部分を、ヤスリ、グラインダー等で削り、ロックピンを挿入した状態で①トリガー先端がフックに当たり、かつ②トリガーを押し下げた時にフックと約1mmの隙間が出来るようにしてください。 (注意) 過剰の削りにより、ロックピン挿入状態で ①トリガー先端とフックボデーに隙間があるとロックピン曲がり等の原因となりますので絶対に行わないでください。 〕

##### 【トリガーロックピン穴の拡大について】

当たり面の盛り上がり等からロックピン穴がずれてピンが挿入できなくなる事象に対して余裕を持たせる為に、トリガーのロックピン穴径を、φ0.5拡大しましたのでお知らせいたします。(2012年3月、生産及び補給分より)



尚、穴拡大前のものについては、トリガーを外し、ドリル等でφ8.5→φ9.0拡大の追加工を行い、ピン穴ずれに対する余裕も持たせることをお奨めいたします。